

# 子どもの目線で考える・・・ 講演と交流のつどい



切り絵：そねはじめ

## 「いじめで遊ぶ子どもたち」

～子どもたちに安心と信頼の生活世界を～

お話：大東文化大学教授

### 村山士郎先生

<プロフィール> 1944年生まれ・山形県出身  
大東文化大学教育学部教授、「子どもの心の声を聞け」と  
いじめ問題で深い研究を続けている  
今年1月「いじめで遊ぶ子どもたち」出版（新日本出版）

とき：2013年3月31日(日)午後2時～4時半

ところ：北とぴあ・スカイホール(15階)

<資料代：100円>

卒園・卒業から入学、進学へ、また進級へ。

子どもの成長を喜びながら、新年度を迎える季節となりましたが、いじめや体罰が原因となって、自殺する子どもの事件が続き、こころが痛みます。

友だちと学びあい、遊び、ともに成長しあうことのできる学校。なによりも、安心と信頼が大切にされなければならない学校で、どうして、「いじめで遊ぶ子どもたち・・・」なのでしょう。

著者である、村山士郎先生のお話を聞きながら、いま、大人がどうかかわればいいのか。何ができるのか。ご一緒に考えてみませんか。

<主催> 日本共産党北区議員団 王子本町1-15-22  
電話3908-7144 FAX5993-0280



## 放課後の遊び場は、子ども自身で自由に選べるように。

### 小学生を児童館から閉め出すのはやめて。

2月2日、区議団主催で、「子どもの目線で、子どもの放課後を考えるつどい」を開催しました。新婦人などの子育て支援活動のグループや、保育士、先生、そして区役所で働く方など、多くのみなさんにご参加いただきました。

限られた時間の中で、北区の動きを、のの山けん区議がご報告し、学童指導員30年の体験を、橘木喜久子さんに語って頂きました。

参加された皆様には、グループごとの交流を深めていただきました。

**この「つどい」での、貴重なご意見、ご提案を受けまして、  
2月12日、区長への緊急要請も行いました。**

その内容は、「児童館のあり方」と「放課後子どもプラン」に関しては、拙速に結論づけすることはせず、当事者である子どもたち、保護者、学校や児童館、学童クラブなどの関係者の意見を十分に汲み尽くすこと、小学生を児童館から除外しないことなどを求めるものです。どうぞ、ご覧ください。

1. 放課後子どもプランは、東十条小学校のモデル事業をよりどころに、地域の力を結集した直営での運営を原則とすること。また、次年度以降の実施校選定にあたっては、放課後子ども教室お実施している学校を最優先とし、地域で支える体制が整っていない学校についてはプラン導入を見送ること。

2. 学童クラブは、放課後子どもプランが実施されても、留守家庭の生活の場という全児童対策とは異なる独自の役割が失われないよう原稿基準での運営を保障するとともに、さらなる拡充をはかること。また、育成料の値上げは行わないこと。

3. 「今後の児童館のあり方に関する基本方針」の年度内決定を延期し、子どもの成育や児童館に関わる関係者から幅広く意見を募り、議論する時間を保障すること。当面、小学生を児童館の利用対象から除外する計画を撤回し、放課後の遊び場については、子ども自身が選択できるようにすること。

■なお、新年度予算審査をふくむ北区議会第1定例会がはじまります。

本会議代表質問：2月26日（火）午後1時予定 八百川孝区議

4 同 個人質問：2月27日（水）午前11時すぎ 永井朋子区議

\*傍聴ご希望の方は、区役所本庁舎4階で、傍聴の手続きをしてください。

■3月31日（日）は、「いじめで遊ぶ子どもたち」を出版された大東文化大学教授村山士郎先生の講演会を開催することになりました。そのご案内もさせていただきましたので、よろしくお願ひ申し上げます。